

【周年栽培いちご実現への体制】

Power X

- 機器設計・技術検討
- 電力利用効率が向上する蓄電池の設置
- 再生可能エネルギー活用ノウハウ



JAPAN AIRLINES

- 太陽光発電・蓄電・活用による電気料金削減と環境効率検証
- 周年栽培による農業収支極大化
- 農業事業展開の検証

JAL AGRIPORT

- 土地、情報、人員の提供
- 実証に係る検討
- 実証期間中のオペレーション／栽培

↑ 出資 ↓

JAL INNOVATION Fund

- スタートアップ企業への投資
- サステナブルな社会の推進



プロジェクトを担うチームメンバー。左からJALの染田恭佑、岡田千咲、JAL Agriportの齊藤徹（あきら）、藪本。

↑ サポート ↓



- いちご周年栽培へのサポート

JAL FARM

JAL AGRIPORT
JAL FARMの運営や
レストランなど



Japan Airlines Ventures
スタートアップとの共創で
新たな価値創出を目指す



「Challenge JAL」などJALグループのさまざまな取り組みは、下記JAL Webサイトでご覧いただけます。

➔ www.jal.com/ja/



JAL FARM内の蓄電池「PowerX Cube」(左)といちご。観光農園を含めいくつもの品種を育てており、夏用いちごは「つぼし」がメイン。

周年栽培の技術サポートを受けながら、図のような仕組みを作りました。「蓄電池と太陽光パネルによる環境制御型周年栽培ハウスの取り組みは日本初ではないでしょうか」と語るのは、JAL Agriportの藪本祐介。かつて米国シリコンバレーでPowerXへの出資に参画し、その後東京の事業開発部で実証体制を整備。現在は成田の現場から、プロジェクトの舵取りを担っています。

「環境への配慮と収益アップを両立するこの取り組みは、次代の農業モデルとしても期待されています。今後は実証実験を深化させながら、事業モデルの確立と国内外への展開、カーボンクレジットの創出も見据えています」(藪本)

太陽エネルギーでいちごを周年栽培

貯められた太陽の再生可能エネルギーを効率よく活用。ハウス内の温湿度を調整し、夏でもおいしいいちごを育てる。ドローンを活用した授粉作業も実験中。

JALグループはこれからも、皆さまと力をあわせながら、地域を元気にする一次産業を筆頭に、さまざまな社会課題の解決にチャレンジしてまいります。

電力の最適運用



REPORT

JALが取り組む新しい空への挑戦を皆さまにお伝えします

Embrace our Challenges **JAL**

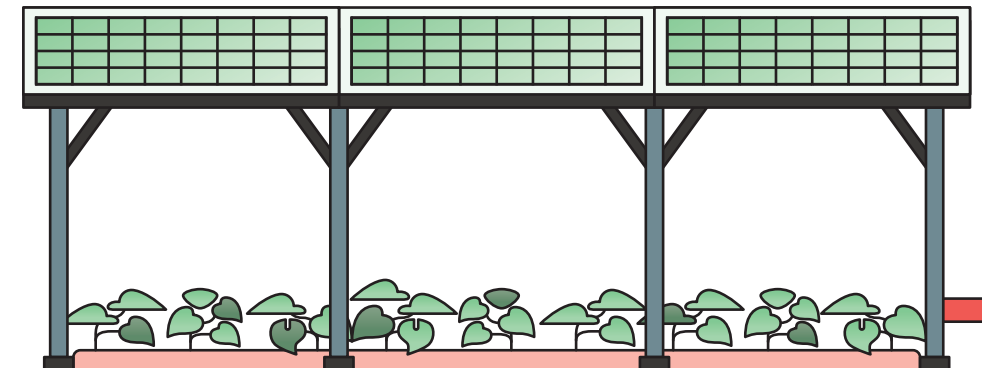
カーボンゼロで周年栽培!?

夏でもおいしい“いちご”に挑戦



**営農型
太陽光パネル**

農業を営みながら発電できる太陽光パネル。パネル下で育てる作物の収量に影響が出ないよう工夫してJAL FARM内に設置。



JAL、農業への挑戦

新年を迎え、日の出をも思わせる真っ赤ないちごが出回り始めました。実はJALグループも、そんないちごを栽培しています。

2018年に生まれた農業法人JAL Agriportは、成田空港周辺の地域活性化への貢献を目指し、約3.5haの農地「JAL FARM」を運営。観光農園やレストラン、加工品の販売などを通じて、地域とのつながりを深めています。特にいちご狩り施設は車いすの方やお子さまも楽しめるよう工夫し、昨年度は約1・5万人の方にお越しいただきました。

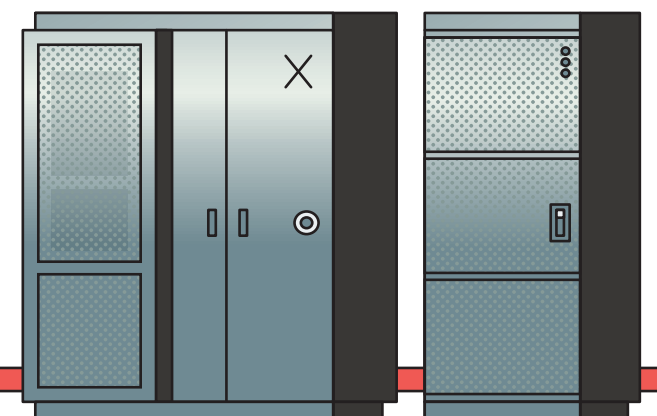
2025年7月、JAL Agriportは、さらに踏み込んだ挑戦を始めました。それが「周年栽培をカーボンゼロ」で叶える実証実験です。

日本でいちごは主に冬〜春に収穫され、夏〜秋は輸入品などが高値で取引されます。そこでJAL FARMは周年栽培設備を導入し、夏でも良質ないちごを育てて農園収入を増やすことを検討。さらに温湿度の調整を再生可能エネルギーと最新技術を使ってCO₂を排出しないカーボンゼロとし、環境にもやさしい「持続

発電+蓄電

**PowerX Cube
に蓄電**

太陽エネルギーを蓄え、AIの予測機能と自動制御機能で最適化して運用。災害時は地域のライフラインにもなる。



可能な農業モデル」にできないかと考えたのです。

PowerX・北海道大学との協業

この挑戦を支えてくれるのが、PowerX社の最新テクノロジーと、北海道大学の知見です。JALグループは2022年から蓄電池を開発するPowerXに出資。2025年にはPowerXと環境事業での業務提携を結びとともに、北海道大学と連携。